

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和元年十一月度 入選句（投稿総数三千五百五十二句・一般投句数四百八十四句）

特選

深みゆく小夜に韋駄天野分雲

大垣市

伊藤 英司

今年は天候不順と云おうか、夏は暑い日が続き、又台風も次から次へと参り大変な年となりました。あばれる台風も「韋駄天」で去っては又来る。うまい言葉で表現され今年の秋もやうやく落ち着いたでしょうか。
とても楽しくほほえましい句です。

役目終え片腕垂らす案山子かな

大垣市

高木 歌佐

お役目御苦労様でした。今年は大変でしたね。今はゆつくり何かに凭れているのでしようね。そろそろ寒くなるので農小屋にでも入って一休みして下さいね。来年もよろしく。

初冬の後手に引く戸の重さ

大垣市

秋山 くに子

大分寒くなつて参りました。お買物もたくさんになり両手のふさがることも多くなりました。つい馴れて来ますとお話しをしながら後手で開け閉めすることがある。仲々戸も言うことを聞かなくなります。こんなところにも俳句が生れます。日常のことも句に出来、楽しいですね。

秀逸

小春日のやうなかな文字八一歌碑

奈良県奈良市

やまとなでしこ

わらじ銭出し送りたる神の旅

福井県敦賀市

山田 美千代

名月を掬ひて農の顔洗ふ

大垣市

村田 通夫

一服の茶から民話の出る霜夜

神奈川県足柄上郡田畑

ヒロ子

茶を替える妻の手瘦せし夕端居

宮城県多賀城市

小松 隆夫

鉄鍋の制する炎冬隣

東京都北区

菱沼 多美子

影が先ず寺門を出る暮の秋

大垣市

鶴田 信子

生きてゐるぞと縮みたる海鼠かな

愛知県名古屋市

舘野 茂子

流し句をするり飲み込む秋の水

大垣市

馬淵 直子

黄昏れて風が風押す芒原

大垣市

大杉 すみゑ

入選

| | | |
|---------------|--------|--------|
| 十六夜の月空席を照らすなり | 愛知県碧南市 | 古井 恵 |
| 托鉢僧無想の構へ秋の橋 | 岐阜市 | 富永 萬里 |
| 晩秋や落暉車窓に消ゆるまで | 大垣市 | 清水 登美子 |
| 風まかせ木の葉気ままに右左 | 大垣市 | 北浦 典子 |
| 御手洗の五円拾円水の秋 | 大垣市 | 宮脇 和子 |
| さやさやと光りし川や赤蜻蛉 | 大垣市 | 高田 雅章 |
| 煮大根ひよいと返して両手鍋 | 大垣市 | 佐藤 すみ子 |
| 敗れ荷吹かれ水面へ魚の影 | 大垣市 | 田中 雅子 |
| 針糸を通し媼の小春縁 | 不破郡垂井町 | 西垣 和志 |
| 教室に団栗ひとつ落つる音 | 大垣市 | 小林 研 |

入選

| | | |
|-----------------|----------|--------|
| 高き枝の柿熟るるまま落つるまま | 大垣市 | 早崎 美弥子 |
| 川に添ひ土塀は朽ちし冬すみれ | 大垣市 | 中山 あや子 |
| 天高し駆け出してゆくスニーカー | 大垣市 | 久保田 悟義 |
| 風つのもり敗れ荷田や縹渺と | 大垣市 | 野村 多佳子 |
| 青き空美濃を彩る柿紅葉 | 本巣市 | 土川 楽人 |
| 鯛雲大海原となる空よ | 大垣市 | 井沢 美志津 |
| 絵手紙や主役の柿とにらめっこ | 大垣市 | 福田 木綿子 |
| 稲舟の棹さす川の揺れ静か | 大阪府河内長野市 | 武田 真須美 |
| 文豪のうぶな恋文小鳥来る | 養老郡養老町 | 田中 紫香 |
| 過疎の村捨田の草に露葎 | 大垣市 | 大原 巖 |

選者吟

水蹴ってしぶきの中の喧嘩鴨

美代子